

Ethidium monoazide, propidium monoazide および DNase 処理を併用したリアルタイム PCR 法による生菌の *Legionella* 属菌の検出

保健科学課 江渕寿美・財津修一・宮基良子・樋脇 弘
九州大学大学院農学研究院 宮本敬久

第 36 回 日本防菌防黴学会年次大会

PCR 法は損傷菌や死菌の DNA も増幅するため、培養法の結果とは必ずしも一致しない。そこで、損傷菌や死菌の DNA と結合するインターカレート剤である ethidium monoazide (EMA) や propidium monoazide (PMA) , あるいは死菌由来の遊離 DNA を除去するための DNase I を用いて試料を前処理し、リアルタイム PCR 法により、浴場水に含まれる *Legionella* 属菌の生菌だけを迅速に検出する方法を検討した。

単独または組み合わせによる前処理のうち PMA 単独および EMA 単独処理を行った死菌と生菌の混合試料では、生菌のみの試料で得られた Ct 値との差が少なかった。すなわち、死菌を含む試料から生菌状態の *Legionella* 属菌を迅速に検出するには、EMA または PMA 単独の処理を行った後、リアルタイム PCR を実施することが有効であると考えられた。